

# 南中祭 コロナ以前の状態へ！

# 舟山

## 南中祭

発行者  
幸田町立南部中学校  
鈴木 一也  
第122号



ホールに響いた歌声

十月一四・一五日の二日間、南中祭を行いました。今年度は、来賓の方々や地域の皆様などにお越しいただくなど、コロナ以前と同様に開催することができました。限られた準備期間の中、生徒たちの工夫によって、模擬店やステージ発表が盛大に行われました。また、町民会館での合唱コンクールではすばらしい歌声を響かせることができました。皆様のご理解とご協力、ありがとうございます。

### 南中祭を終えて

三年 日高 拓真

私たち三年生にとって、最後の南中祭。最後だからこそ、自分から思い出に残る行事にしようと、初めて合唱の指揮者に挑戦しました。自分なりに考えたことをパートリーダーと相談し合い、クラス全体に指示をしました。また、みんなが歌いやすいように、家でも指揮の練習を重ねてきました。合唱コンクール当日、結果を聞くまで私はとても緊張していました。『二組』という最優秀賞の発表の声を聞いて、三年間で初めてということだけでなく、この仲間と最優秀賞をとれて本当にうれしかったです。



やりぬいた合唱コンクール

合唱コンクールを通して『やりぬく心』『仲間』の大切さに気づきました。私たちは、これから受験に向かっていきます。受験も『結進』学年全員で雰囲気をつくり、最後までやりぬいていきたいです。

### 全力だからこそ

二年 伊藤 寛太

最優秀賞だとわかったとき、「やった」と心の底から思いました。私は指揮者として合唱コンクールに向けてみんなと全力で挑みたいと思っていました。最初は上手いかならないことばかりでした。でも、クラスメイトの全力で取り組む姿によって私は支えられていました。みんなと創りあげてきた歌は本当に心に残るものでした。笑顔で歌うみんなの姿は私の不安を消してくれました。そんな歌だからこそ、より全力で挑みたいと思えました。本番であれだけの笑顔で歌えたのは今まで支えてくれた方とみんなのおかげです。そんなみんなととれた賞だからこそとてもうれしかったです。この合唱コンクールで得ることのできた、みんなと力を合わせる大切さを今後の生活に生かしていきたいです。



全力で挑んだ指揮

### 誰よりも楽しむ

一年 グエン バオ チョウ

私たち一年生にとって初めての合唱コンクール。わくわくした気持ちと上手いのかという不安がありました。私はアルトのパートリーダーになりました。リーダーとして意識したことは楽しむことです。自分だけでなくクラスのみんなも明るい合唱曲とともに楽しく歌ってほしかったからです。練習では、注意点ばかりを言うのではなく、「ここよくなってきたよ」と、モチベーションを上げる言葉がたくさん伝えました。すると、みんなからもプラスの言葉がたくさん出てきて、明るい雰囲気が生まれました。コンクール当日はみんなの表情も明るく、今までのことを全て出し切ることができました。リーダーとして大変なこともあったけれど、今回の経験を学級副委員長の仕事に生かして、さらに楽しい一年二組を創っていきたいです。



楽しむことができた合唱

# 校内体育大会 9/9

## 自分たちの成長

一年 山北 拓篤

今回の体育大会はさまざまなところで成長することができました。私は、高跳びに出場しました。練習では、思うように跳べず記録が伸びませんでした。本番は緊張していただけ、友達と励まし合いながら取り組んだら、今まで跳べなかった高さを一人とも跳ぶことができたのはとてもよかったです。

みんなで取り組んだ南翔結戦では、最初は踊れなかったけど、仲間が教えてくれて自信をもってやりきることができました。文字やウェブも協力してそろえてやれました。見ていただいた方が歓声を上げてくれてとてもうれしかったです。結果は負けてしまいましたが、クラスでがんばれたことは思い出に残っているし、みんなが成長できました。



自信をもって踊った南翔結戦

# 交流会 9/22

## 交流会を終えて

二年 河合 蒼太

私は今年度の交流会では「手話」の講座を受けています。第一回、第二回では名前、学校や好きなものを表現できるようになり、手話の楽しさがわかってきました。

第三回では、「ポッチャ」というスポーツをしながら、手話を学びました。喜びや悲しみのリアクションの取り方や、ちょっとした会話が難しく、チーム内でもコミュニケーションをなかなか取ることができませんでした。しかし、やっけていくうちに相手の思っていることを少し理解できました。講座内のみならず、これからもこの学びを生かし、もっと手話を身に着けたいです。



手話講座でポッチャに挑戦

# 新人体育大会 9/30

## 一本集中

二年 齋藤瑠々華

今回の新人戦では、二年生が主となる初めての大会でした。不安や焦りがあつたけれど、学校の代表として恥ずかしくないような射ができるよう練習し、自信をもって挑みました。

大会当日、的の前に立った瞬間、緊張感が一気に高まり、とても足が震えました。しかし、前日に従妹とともに練習したことを思い返して大切なポイントを意識して打つことができました。そこでは、日頃の練習を思い返して、「一本集中」を意識することや自分を最後まで信じる気持ちが大切だということを知りました。

大会では、団体優勝でき、うれしい気持ちですが、個人の成績は納得がいくものでなかったため、これからの大会では納得できる結果を残したいです。

## 後期生徒会役員紹介

会長	二年	山崎	なな
副会長	二年	丸山	夏葵
書記	二年	牧	大悟
	二年	杉浦	暖七
	一年	古川	凌愛

## 幸田町中学校新人体育大会

### ○団体の部

- 優勝 卓球部男子 卓球部女子
- 弓道部女子 剣道部男子

### ○個人の部

- 優勝 高橋 叶慎(卓球女子)
- 内藤 友南(弓道女子)
- 内藤 大晴(剣道男子)
- 第二位 中根 祥人(卓球男子)
- 金子 由愛(卓球女子)
- 並木亜由菜(剣道女子)
- グエンバオチュウ(剣道女子低学年)

## 地域に愛される南部中へ

三年 山崎 なな

先日行われた南中祭では、四年ぶりに地域の方を招いての開催になりました。四回の講座を通して、日常では学べないことを体験できました。講師の方との何気ない会話が楽しかった交流会。学区の小中学生が笑顔で楽しむ姿、PTAの方による模擬店。「コロナのときにはなかった活気が南部中にあふれていた」と改めて実感しました。それと同時に、地域の方々に支えられているのだなということにより強く感じました。

今年度の生徒会スローガン「新晴(しんせい)」には、これまでの伝統を受け継ぎ、さらに良いものを創り上げていきたいという思いが込められています。『地域とのかかわり』は南部中の伝統です。地域とのつながりに感謝し、地域に愛される南部中をつくりたいです。